



大町商店街にある、キッズスペース併設の
コワーキングスペース「MARUWWAニコメ」。
そこに集うママや働く人々が自分たちの
目線で見つけた、これから活躍しそうな
ヒト・モノ・コトなど身のまわりの新しい芽。
それが「ニコメ(二個目)のメ(目・芽)」です。

MARUWWAニコメ
〒017-0841 大館市宇大町9
TEL:0186-59-5305
https://maruwwa.com/nicome/



わたし目線で見つけたこの街の新しい芽

Vol.33

今月のメダマ

①

〈体験談インタビュー〉

男性育休を取得してみても

要件を満たせば誰でも取得でき、期間中は国の雇用保険から給付金が支払われる「育児休業制度」。2022年に段階的に施行された「育児・介護休業法」の改正により、期間を分割しての取得が可能になり、「産後パパ育休」が新設されるなど、男性にとっても育児休業が身近なものになってきました。

今月のニコメノメでは、8か月という長期の育児休業をパパが取得し、「取ってよかった！」と声を揃える一組のご夫婦にインタビュー。男性育休を家族で上手に利用するためのヒントを探ってみました！



大館市在住 阿部さんご夫婦

大館市役所職員の夫・孔達(こうたつ)さん(33才)と、養護教諭の妻・八重(やえ)さん(32才)、長女・日鞠(ひまり)ちゃん(6才)、次女・詩季(しき)ちゃん(1才)の4人家族。詩季ちゃんが生まれた際に、八重さんは約1年3ヶ月、孔達さんは約8か月の育児休業をそれぞれ取得。

すり寝てくれるし、ストレス発散もできていたと思います。

妻：長女は、家では赤ちゃんにかなり気を使っていたので、夫が発散させてくれて本当に良かったなと思います。保育園の送り迎えも夫が行ってくれたので、次女がせっかく寝たのに起こして連れて行かなきゃいけないというようなこともなくて。

夫：自分がいることで家族全体のバランスが取れるように動いていました。「生まれた子のための育休」というよりは「家族休」という感覚でしたね。
妻：長女に我慢させないようにだとか、子供の成長につながるようなことをたくさん考えて動いてくれました。

—もしも3人目ができたとしたら？

妻：それはもう、絶対に休んでほしいです！期間は半年ぐらいあると助かるかな。今回の8ヶ月も、長すぎたという感じはまったくなくて、ちょうどよかったと思います。

夫：少なくとも半年は休みたいですね。実際は難しいかもしれませんが、本音としては、できれば歩き出すぐらいまで見届けてみたいです。

—男性育休を取った理由は？

孔達さん(以下、夫)：子供の成長を見届けたかったからです。1人目の時は仕事が忙しく、あまり成長過程を見ることができませんでした。できれば立つ姿まで見たいと思い、当初は1年間休むつもりでしたが、収入面を考慮して8ヶ月にしました。

八重さん(以下、妻)：「(育休を)取ることにした」と夫に言われて、「ああ、いいんじゃない？」と。ただ、てっきり3ヶ月くらいかなと思っていたので、8か月と言われた時は正直「そんなに休んで大丈夫!？」とびっくりしました。

夫：でも、取得してみて改めて、3ヶ月では短いなと思います。それぐらいから子どもが動き出して、目が離せなくなってくるので。

妻：確かにそうですね。産後の体調はかなり回復する頃ですが、やはり付きっきりになってしまって、一人だと

本当に大変です。

夫：自分がいることで妻が休む時間を作れたんじゃないかな。

—育休を取って良かったことは？

夫：やはり接する時間が長く、ずっと子どもたちを見ていられたことです。
妻：1人目の時は夫の残業が多く、夕方になると不安でいっぱいになったりしていました。今回は夫がいてくれることで精神的な支えにもなったし、あとは去年は雪が多かったのが、日々の雪かきをしてくれたことがとにかく助かりました。

夫：生まれたばかりの子どもに対して父親ができることは少ないので、その分洗濯や買い物などの家事と、長女の遊び相手をがんばりましたね。土日とはにかく外に連れ出して、ヘトヘトになるまで思いきり遊びました。日曜日にも翌日に仕事がないので、気兼ねなく全力で遊べました。おかげで夜はぐっ

今月のメダマ

②

〈男性育休インタビュー〉

「量より質」でママに寄り添って

助産院イスキア 助産師・IBCLC 菅原光子さん

男性が育児休業を取るという考え自体が以前より広がってきたとはいえ、仕事の都合や経済的な余裕などの様々な理由で、実際には取得できない家庭もたくさんあります。忙しいパパが育児に向き合う上で大切にすべきなのは「量より質」。たとえ関わる時間が少ししか取れなくても、家族と一緒にいられる時間にパパがどう過ごすかで、24時間大変な思いをして育児と向き合っているママの負担は大きく変わってきます。

反対に、男性育休を取得したものの、「授乳ばかりで自分にはすることがないから」と、パパが一人で遊びに行ってしまったという話を耳にすることも。新生児期だって、授乳だけが育児ではありません。少しでもママが一人になれる時間を作ってあげたり、上の子がいる場合は遊び相手になったり。「何もできない」と諦めてしまわず、まずは「抱っこ遊びのプロ」になりましょう。おっぱいが出なくなっても、できることはたくさんありますよ。

そしてもう一つ欠かすことができないのが、職場の理解。男性育休どころか、「妊娠したら働きづらくなって仕事を辞めた」という女性もまだまだいるのが現状です。働きやすい環境を作ることは、企業の評価にも繋がります。妊娠出産を終えた女性に「いつから仕事に復帰できるの?」とたたみかけるのではなく、「おめでとう。まずはゆっくりして、働けるようになったらまたお願いしますね」と言えるように、考えを見直していきたいものですね。



いしころキラリ

新たな働き方
人との巡り合い

もうすぐ小正月行事のアメッコ市です。まだまだ厳しい冬が続きますが、そのあとの年度末に向けて繁忙期を迎える会社や事業者も多いかと思えます。いしころ合同会社でもさまざまな事業完了に向け大詰めを迎えます。年度が変わると春になり、すぐに自主事業である「十ノ瀬 藤の郷」の準備を始め運営のスタッフを募集します。

いしころ合同会社ではわたしたちの活動に共感し、力になってくださる方を随時募集しています。副業として、またはちょっとしたアルバイト感覚で、パソコンを使った業務やMARUWWAの受付業務などさまざまな仕事があります。小さな事でも、自分の得意分野を活かした仕事を見つけるチャンスかもしれません。

また、本気でクリエイティブ業や地域活性化を生業にしていきたい方も大歓迎です。地域の人や企業、文化や自然などに深く関わるデザイン業務を多く行っているため、撮影や動画編集、取材・インタビュー記事作成などを一緒にできる方を、フリーランスへの業務委託も含めて広く探しています。実際に、大館学び大学で講座を受けたことをきっかけにフリーランスとして自立したり、副業を始める人も増えています。デザインといっても華やかな業務だけではなく、地道な業務や力仕事も少なくありませんが、やってみたいという方は大歓迎です。

働き方改革や人口減少に伴う働き手不足など、地方においても働き方は多種多様になってきていますが、日々その課題に直面しながらも解決する仕組みをデザインできないか模索しています。もうすぐ5年目を迎えるMARUWWAは多様な働き方を目指す人が集まって来る拠点になりたいという想いで運営しています。相談だけでも良いので、興味のある方はぜひ一度のぞいてみてください。

MARUWWA
Share Office / Coworking Space / Community Salon

MARUWWA(マルーフ) 10:00-20:00 休/火
〒017-0044 大館市御成町1丁目12-27 わっぱビルディング2F
TEL 0186-59-6777 www.maruwwa.com